

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 6 月 3 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～39,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,800 ドル
(S&P500) 4600～6050

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 17,600～22,000
(ナスダック総合) 15,700～19,900

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～145.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

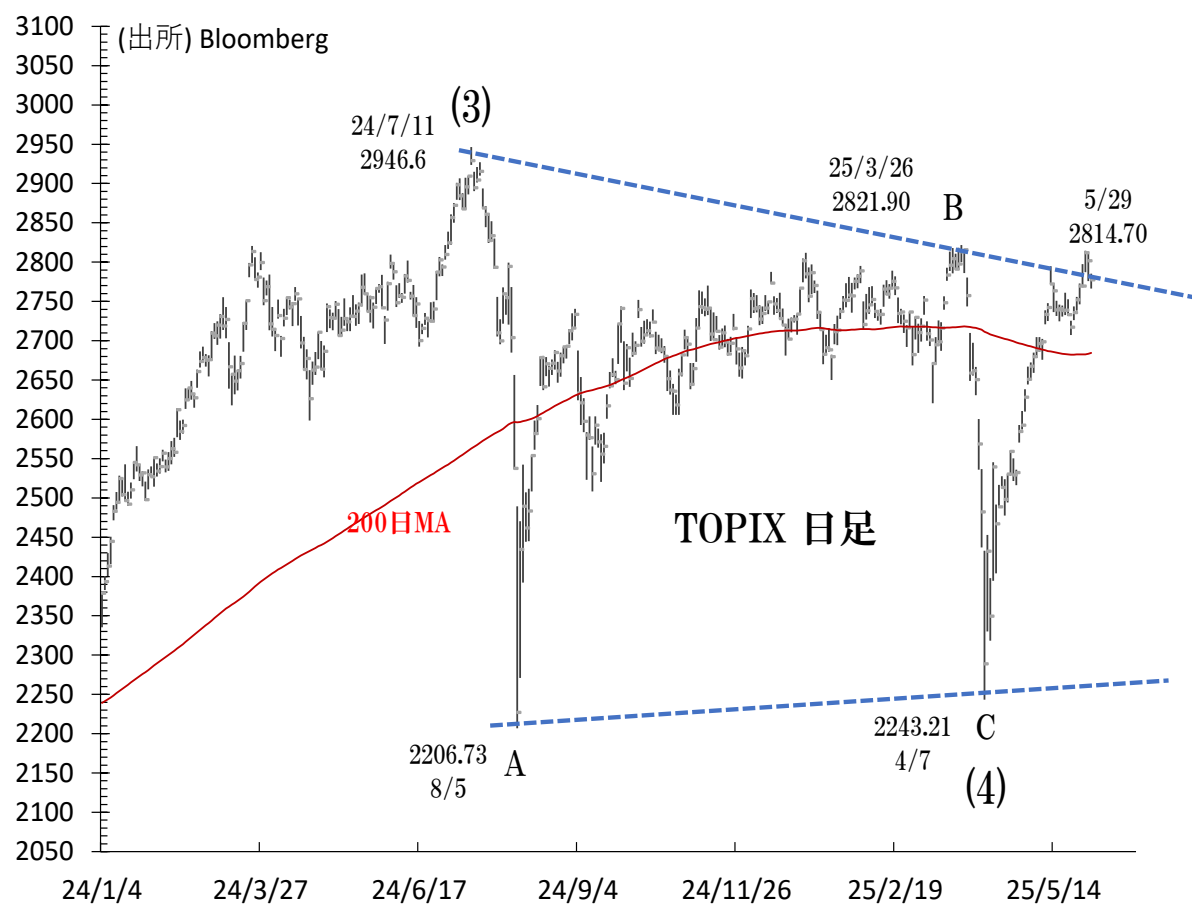
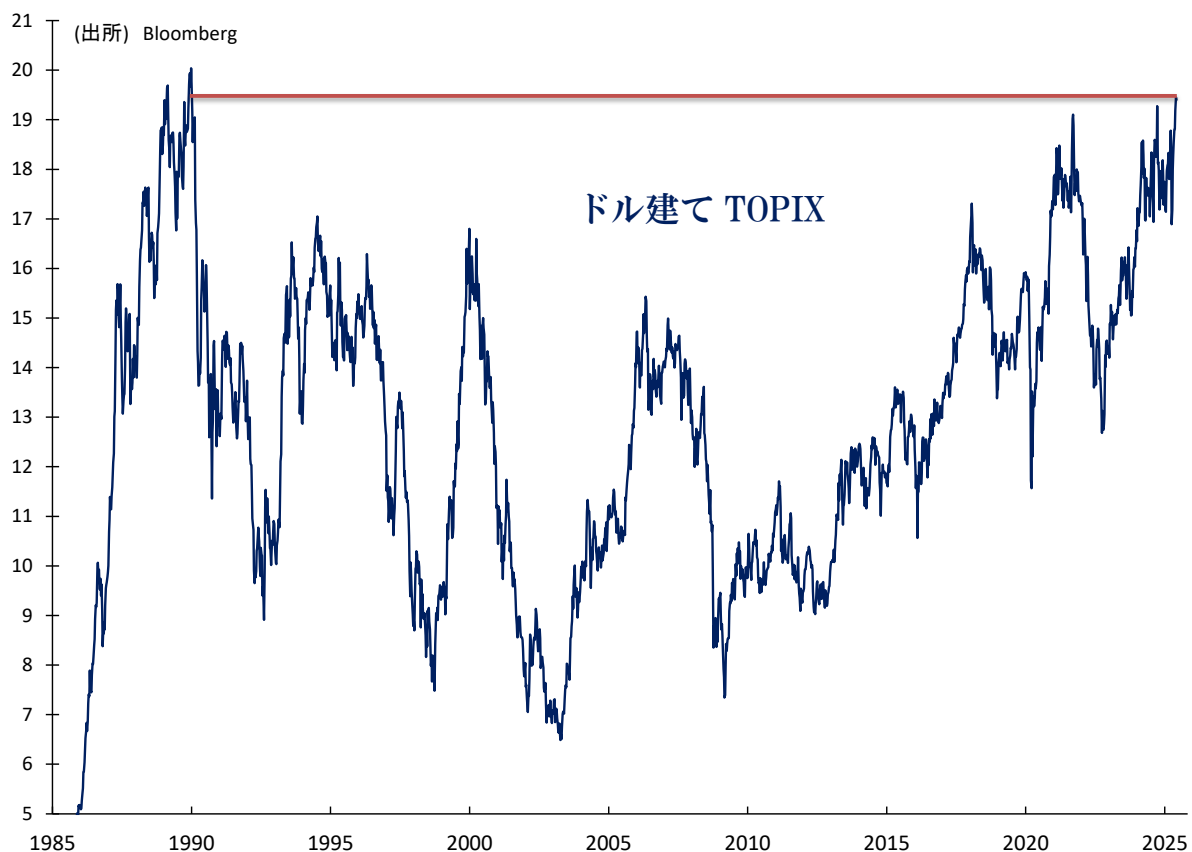
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

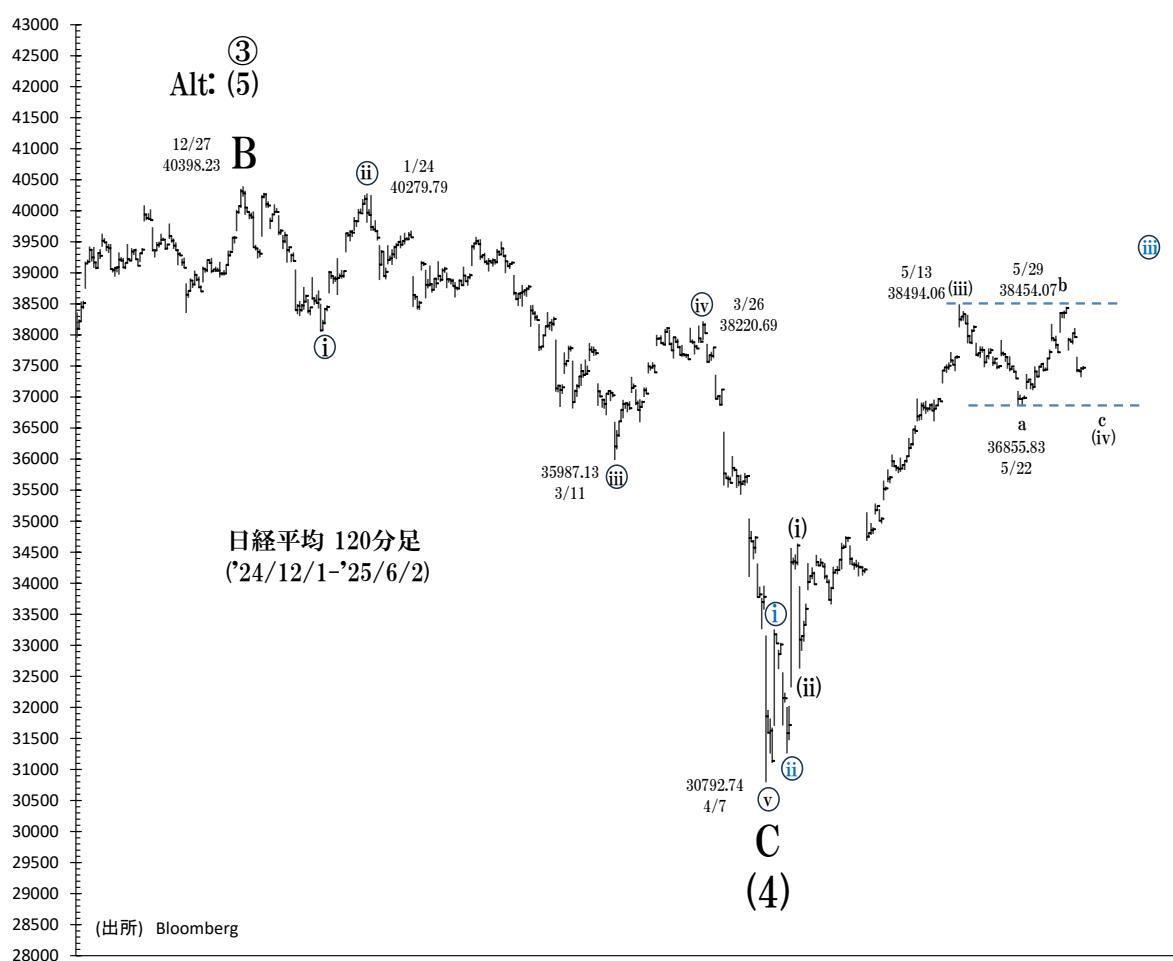
日経平均は、インターメディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。そして第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底(16358.19 円)からのラリー中「最後の上昇」に相当します。

順当にいけば、第(5)波は 24 年 7 月高値(42,426.77 円)を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

引き続き①旺盛な自社株買い、②米ドル離れ・円高傾向を受けての海外マネー流入(5 月第 4 週まで、海外投資家は現物株を 8 週連続で買い越しました)、さらに 6 月末にかけて 10 兆円規模で支払われる見込みの③配当の再投資、これら需給要因が第(5)波を支える展開が期待されます。

先週、注目のドル建て TOPIX は一時 19.51 ドルと 35 年半ぶり高値を付けました。89 年 12 月高値(20.18 ドル)も視野に入り、そんな日本株の強さは長らく傍観していた海外投資家の日本株見直し機運を高めるきっかけとなりそうです。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

足元、年初来高値 2821.90 (3/26) を試す局面を迎えています (5 月 30 日に一時 2814 へ上昇)。年初来高値を更新すると、いよいよ 24 年 7 月の過去最高値 (2946.60) 試しが視野に入ります。

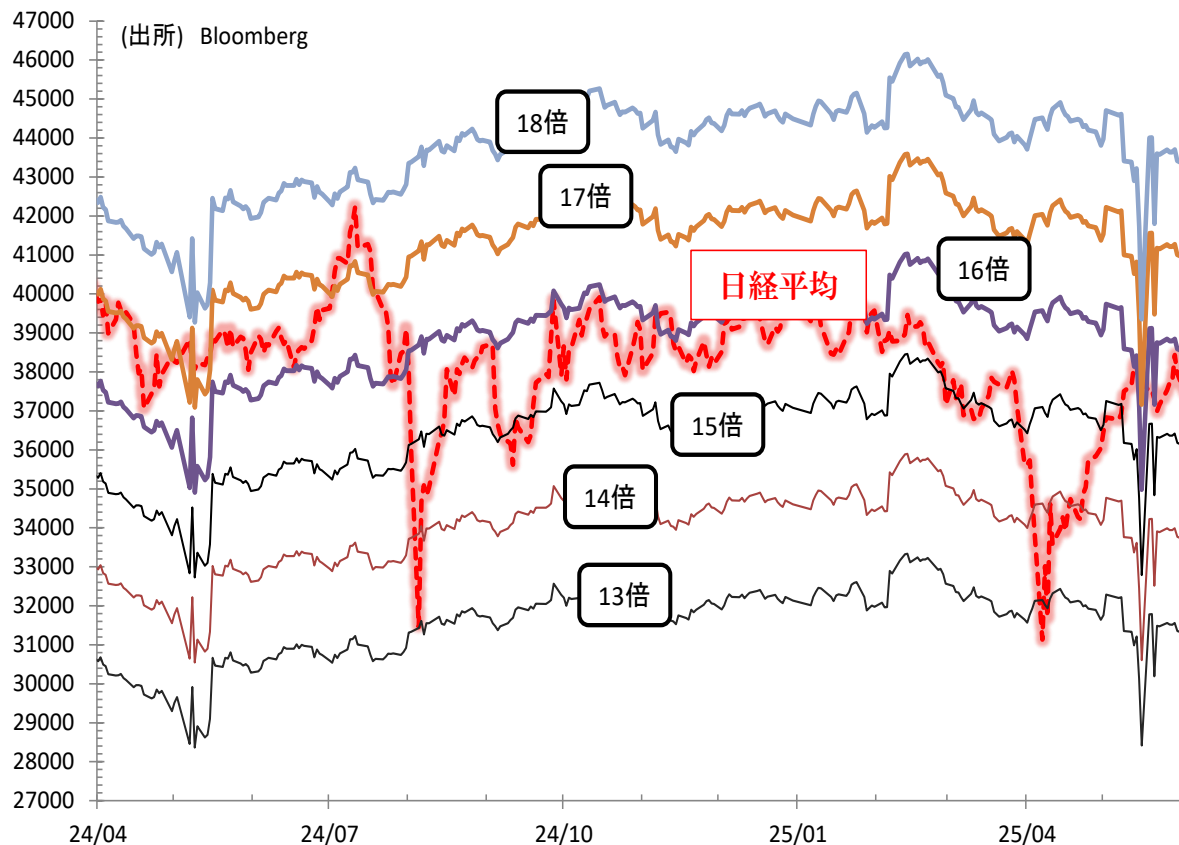
[日経平均]

5 月 29 日高値 38,454 円は、5 月 13 日高値 38,494 円に僅かに足りず、ミニダブル・トップとなりました。足元の下げは「フラット」中 c 波とみられます。短期的には 36,855 円 (5/22 安値) 付近へ下押し、ミヌエット級第 (iv) 波を完成するでしょう。その後は第 (v) 波が始まり、それは 38,494 円を上抜き 4 万円レベルを試すと思われます。

[予想 PER 別の日経平均水準]

6 月 2 日の日経平均予想 PER は 15.57 倍・予想 EPS は 2406 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

36,611 ドル(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドに当たります。

5 月 19 日高値(42,842 ドル)は、第(1)波中レツサーディグリー第 4 波高値[42,821 ドル](3/26)に合致し、第(2)波が終わるのに理想的な水準を満たしています。

5 月下旬以降では 200 日 MA を上値とするもみ合い展開が続いていますが、41,354 ドル(5/23 安値)を下抜くと弱気トリガー。第(3)波下げトレンド入りの可能性が一段と強化されます。

引き続き上値試しが続くなら、24 年高値からの下げに対する 76.4%–78.6%戻り[43,076 ドル–43,262 ドル]がメドになります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)・カウント)

4910(4/8 安値)からの第(2)波は 5968(5/19 高値)を以て終了し、既に第(3)波下落が始まった可能性があります。

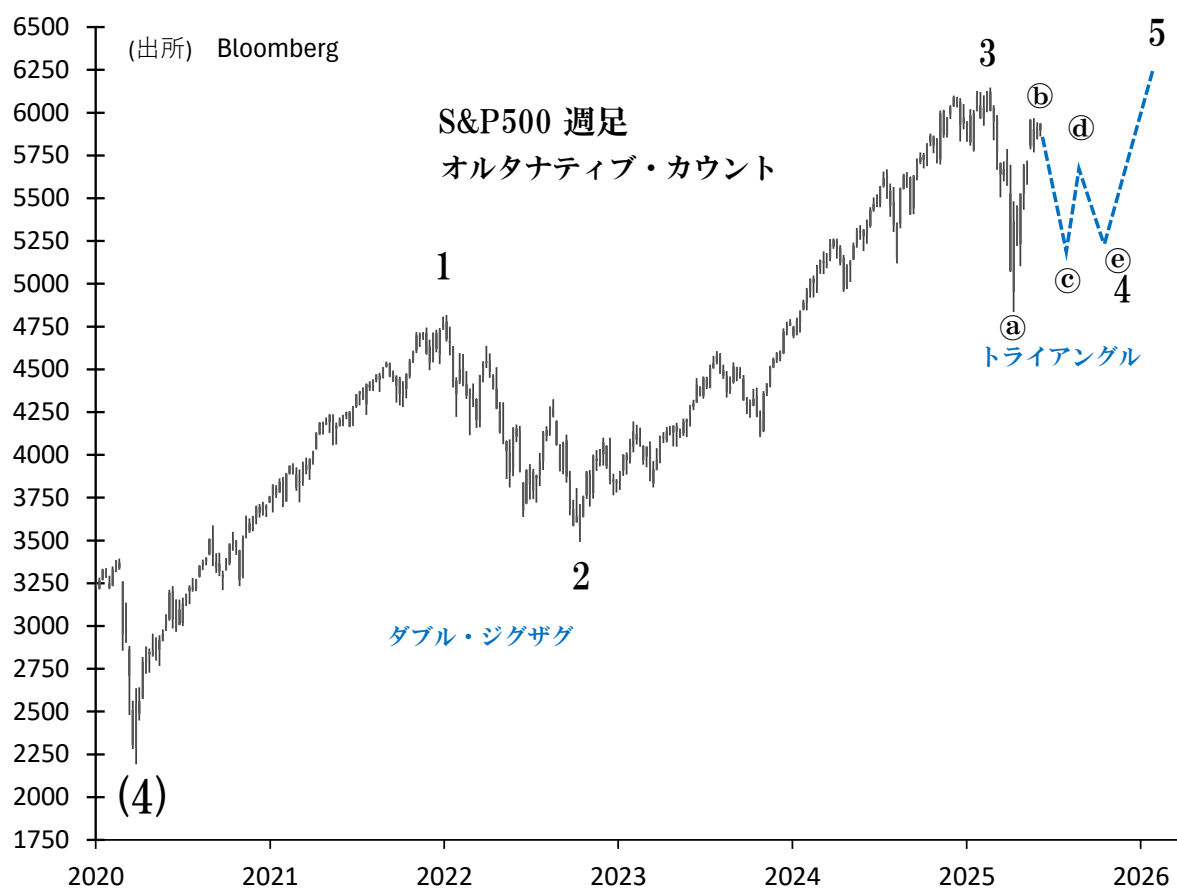
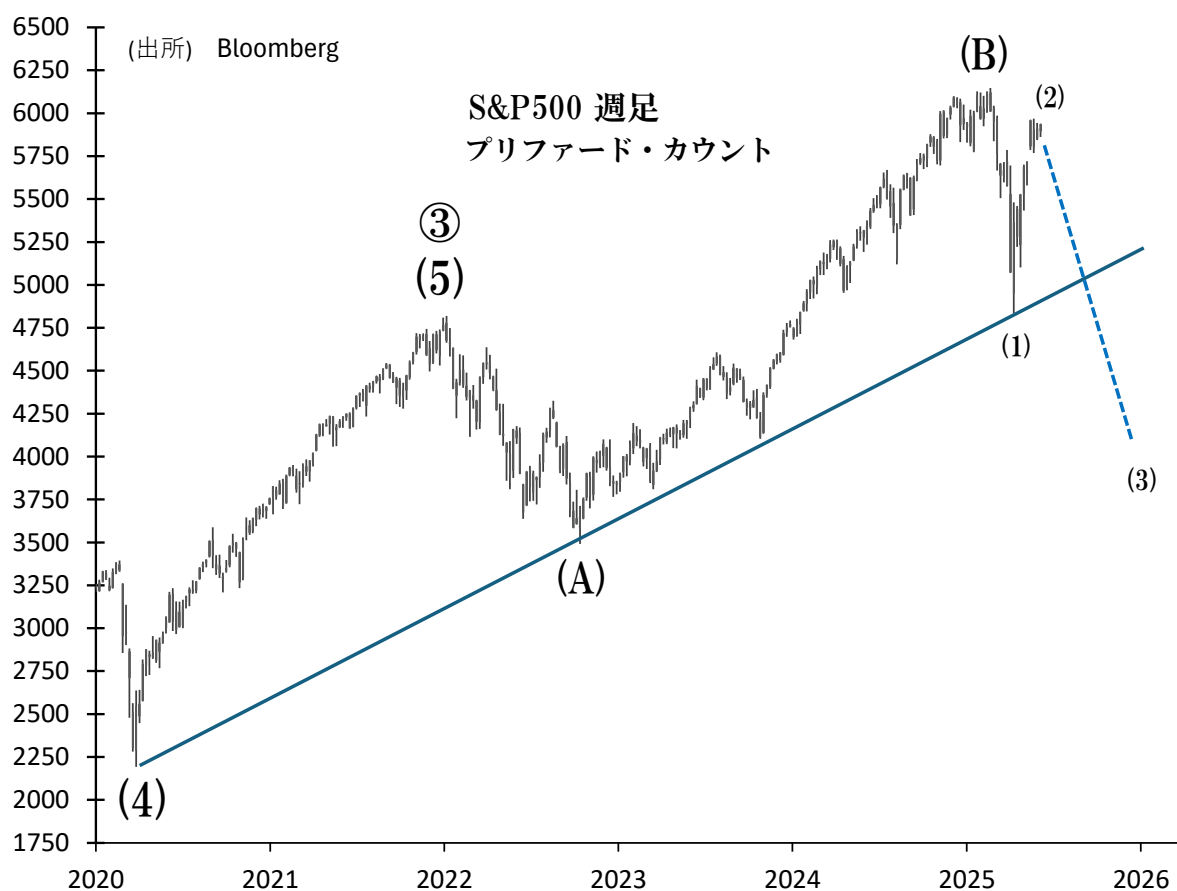
今のところ 200 日 MA によるサポートを受けていますが、5767(5/23 安値)を終値で下抜くと、トレンド変調を示唆します。来る第(3)波の下落スケールは、第(1)波と同程度(1293 ポイント)か、(順当なら)より大きなダイナミックなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

2020 年底からの五波構成中、今年 1 月からは第 4 波の調整局面です。

第 2 波(21 年末～22 年 10 月)が「ダブル・ジグザグ」だったことから、第 4 波は「トライアングル」「フラット」など複雑な保ち合い構造になるでしょう(オルタネーション)。

試みに「トライアングル」を想定すると、4 月からの上昇はパターン中⑥波です。まもなく⑦波の下げに入りますが、それは⑥波上昇分の 60%～70%を打ち消すでしょう。



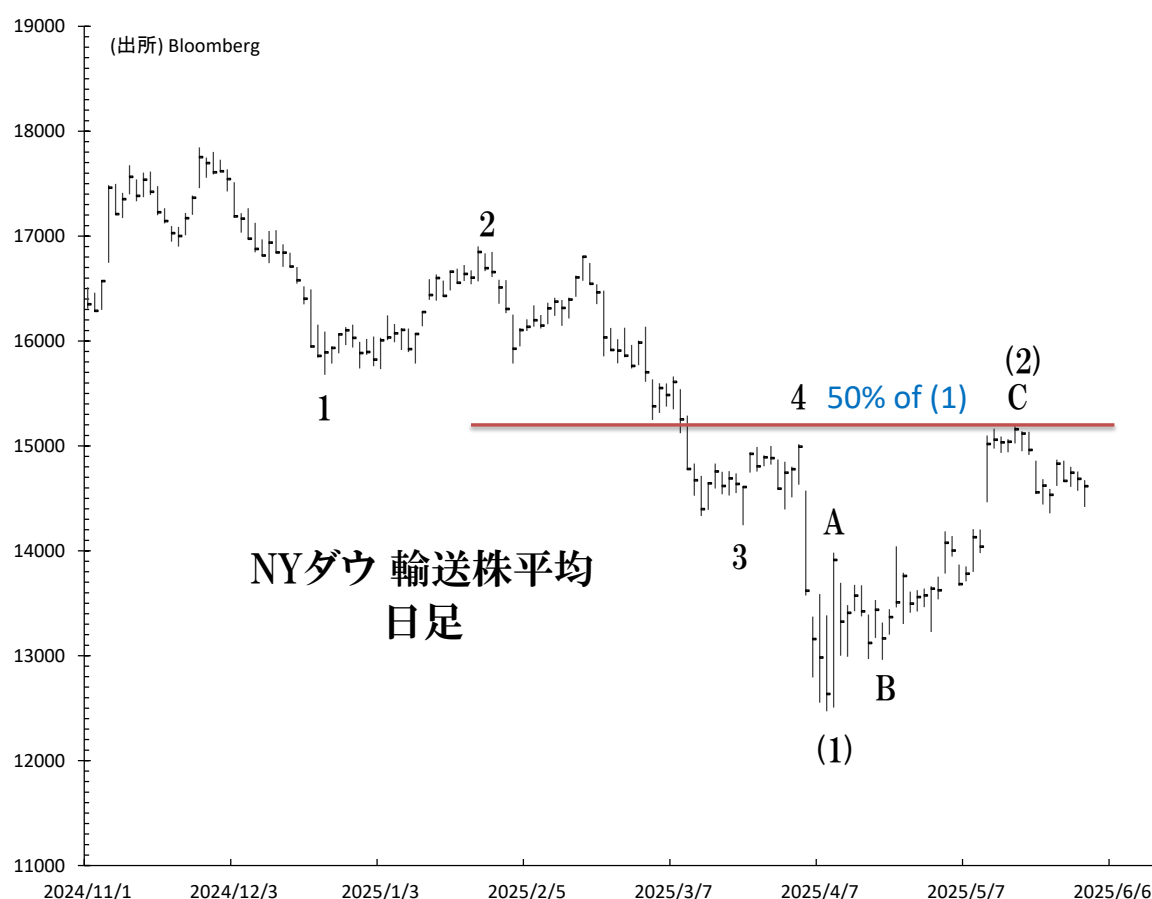
ダウ輸送株平均

ダウ工業株平均と相互比較されることの多い輸送株平均は、21 年 11 月に過去最高値(18,246ドル)を付けました。そこから3年後の24 年 11 月に 17,845ドルまで上昇しましたが、それは長期二番天井になり、今年 4 月安値(12,470ドル)まで 30%の大幅下落を演じました。

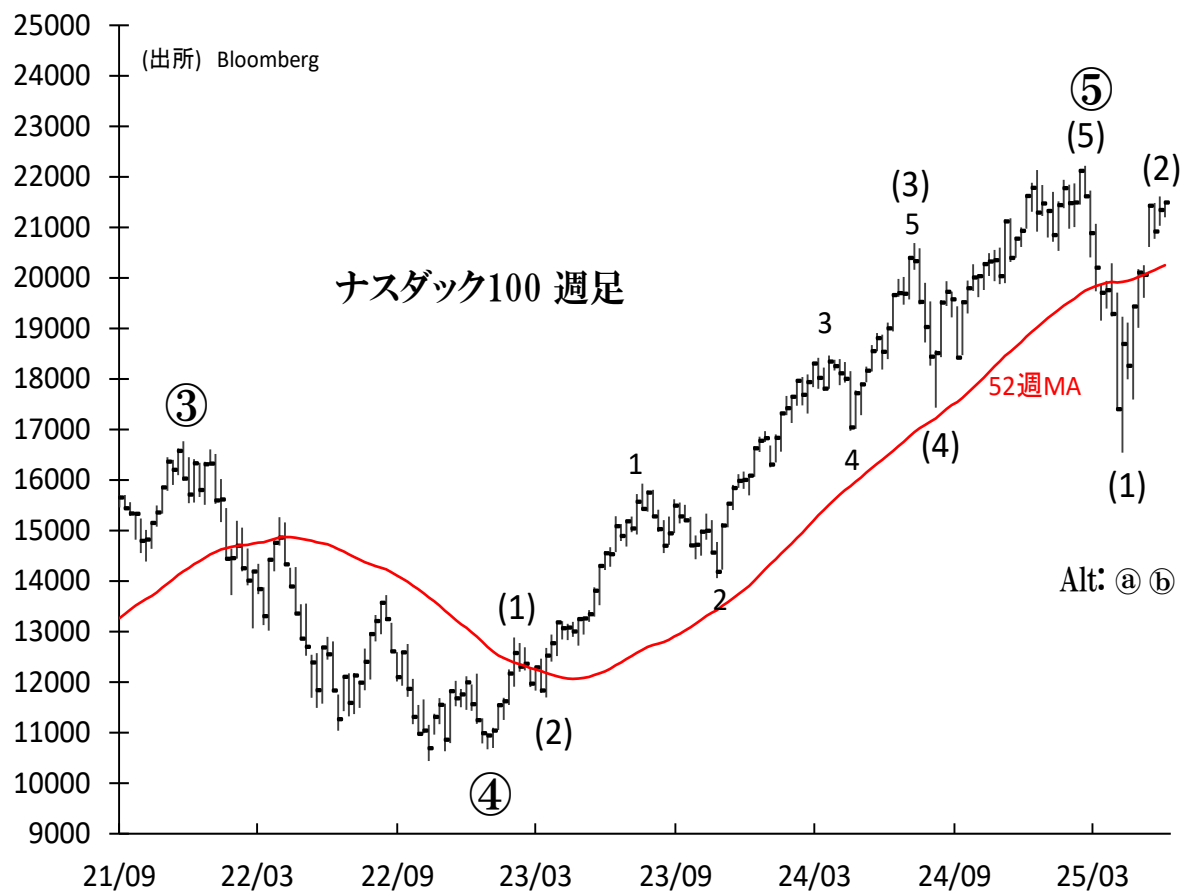
今年 4 月までの下落トレンドは 5 つの波動で構成されており、3 波構成によるリバウンドの後に、新たな下落トレンドが続くことが示唆されています。

ちなみに 4 月からのリバウンドは 15,189ドル(5/16 高値)を以て終わった可能性があります。それはレツサーディグリー第 4 波高値水準に近い上、4 月までの下落の半値戻り(15,158ドル)に合致しています。

そうであればダウ輸送株平均は、5 波構成による下落トレンドに入っており、いずれ 4 月安値を下回ることが予想されます。



ナスダック



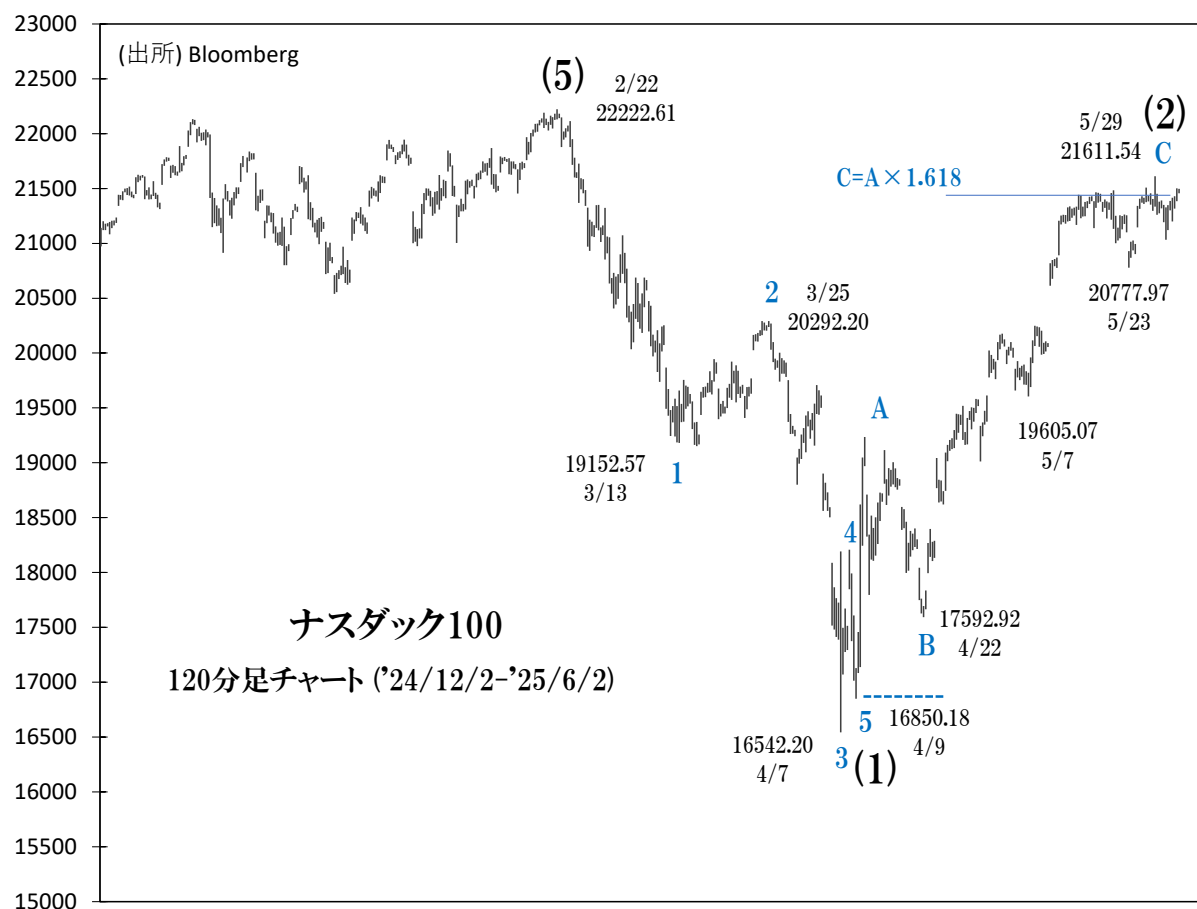
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値 (22,222) 以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

ナスダック 100・総合指数はほぼ「全値戻り」となっています。これら二つの指数は近いうちに、1 月高値と現行の第(2)波を以て「ダブル・トップ」を形成し、そこから第(3)波の下落に入るでしょう。第(3)波によりナスダック 100 は、4 月安値 16,542 を大きく下回るでしょう。

オルタナティブ・カウントは、4 月安値からの上昇は第(5)波というもので—前の波に比べ第(4)波が大きすぎる点に違和感がありますが—ナスダックは高値を更新することが予想されます。それを以て強気相場は終了し、調整局面を迎えるでしょう。



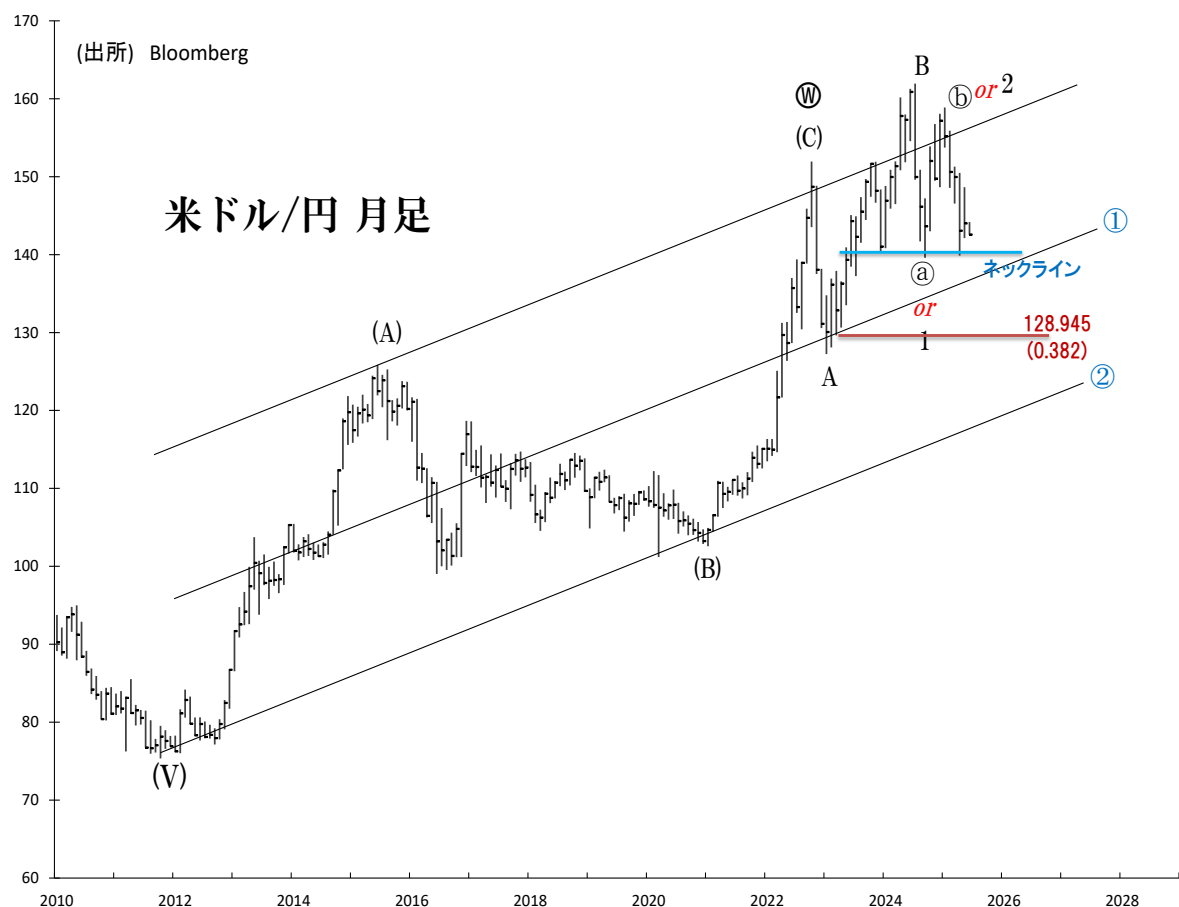


【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

16,850(4/9 安値)からは第(2)波リバウンドが進行中とみられ—第(1)波の下落トレンドにおいて第 5 波は短縮されました—そのパターンはジグザグ(A-B-C)です。17,592(4/22 安値)からの上昇は C 波に当たります。

21,611(5/29 高値)が第(2)波の終点となるかに注目しています。[20,915](5/23 終値)を下回ると 5 月 23 日のマドが埋められることになり、第(3)波入りの最初のトリガーが発動します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.935 円(6 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試すと思われます。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.310 円(6 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。C 波は(先ずは)三波構成((a)-(b)-(c))が想定され、158.825 円(1/10)から©波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年 1 月からのドル安・円高を第 3 波とカウントすることもできます。このサブシナリオによれば、先々 1 ドル＝120 円試しも視野に入ります。

139.877 円(4/22)からのリバウンドは終わったとみられます。そうであれば、139 円処のネックラインを近々ブレイクするでしょう。

ネックラインをブレイク後、最初のターゲットは 136.935 円近辺(既述)、その次は 128.945 円(同)です。ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ 1 ドル＝120 円割れの可能性もみえています。



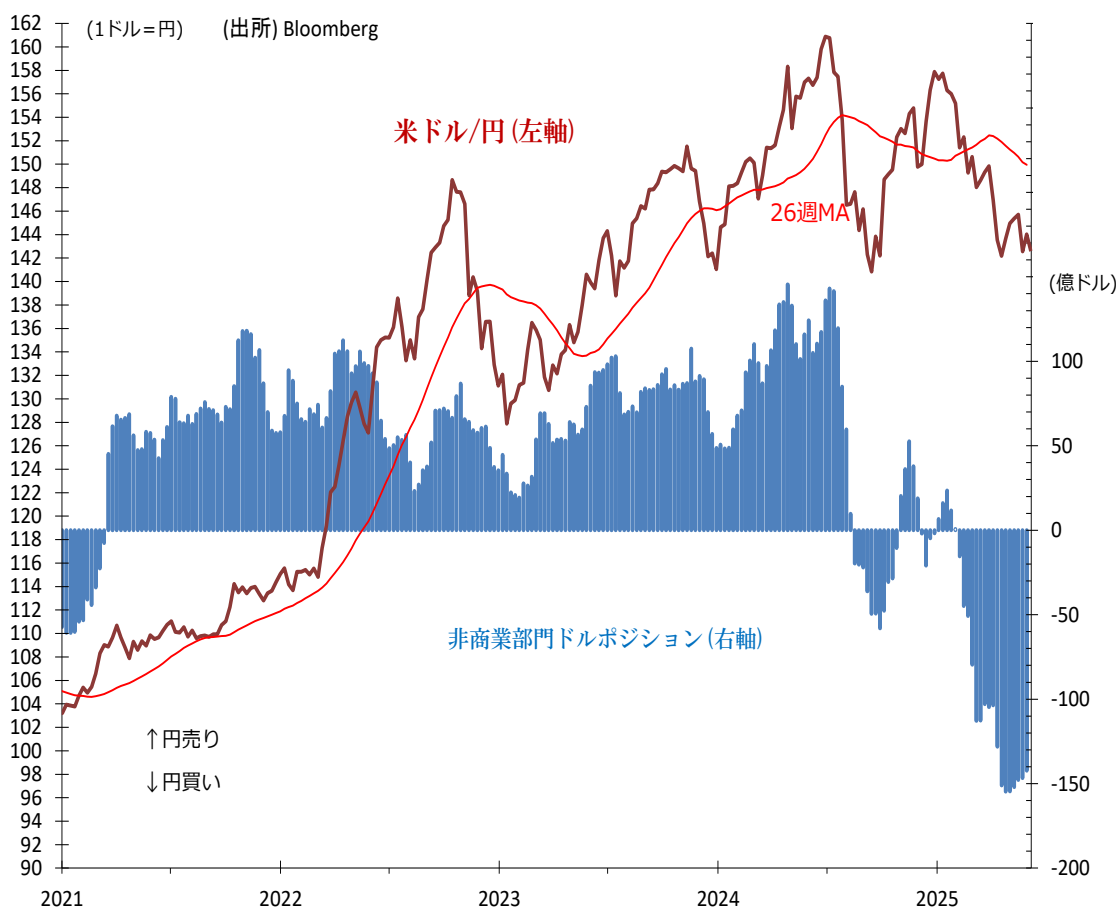
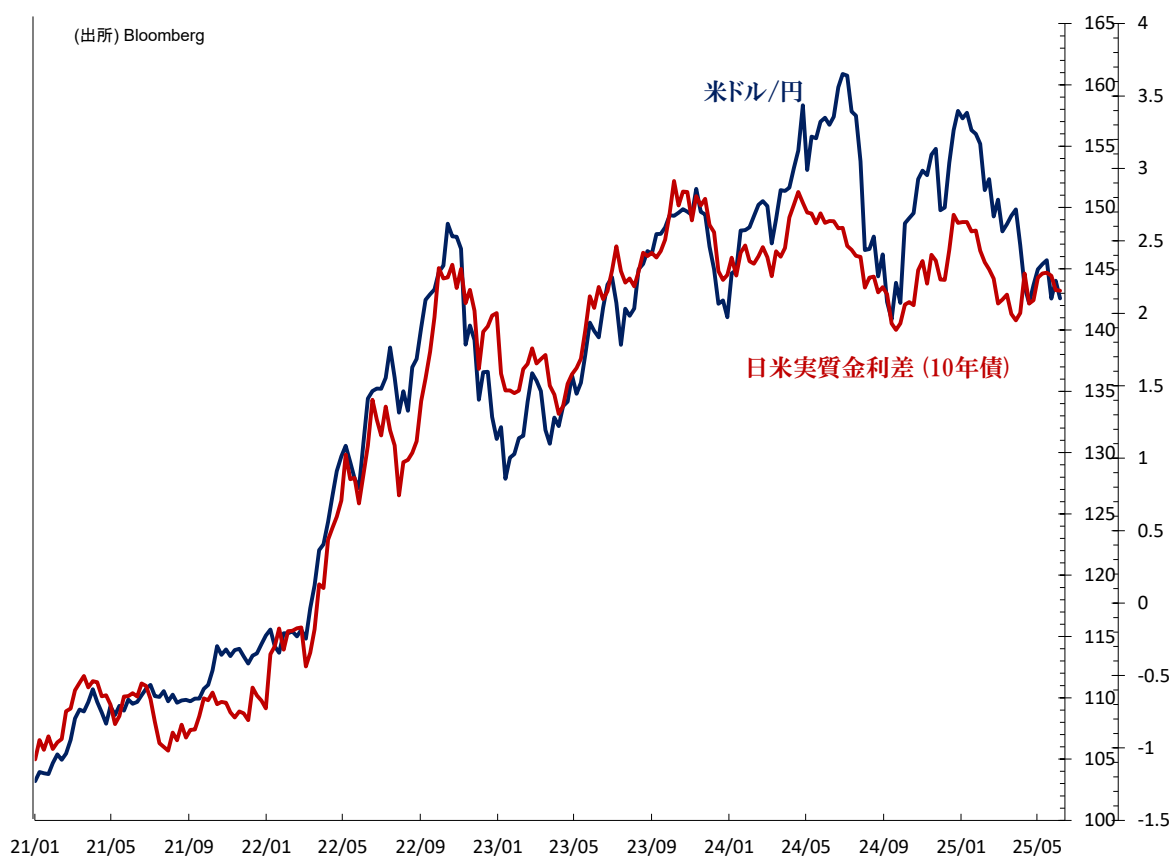
マル iii 波中第(ii)波のリバウンドは 146.247 円(5/29)で終わり、**マル iii 波中第(iii)波によるドル安・円高が始まったとみられます**(この見方は 142.093 円を割ると強化されます)。この波動カウントが正しければ、**ドル/円は近々139.877 円(4/22)を明確に下抜くでしょう。**

金利差からのドル/円推計値

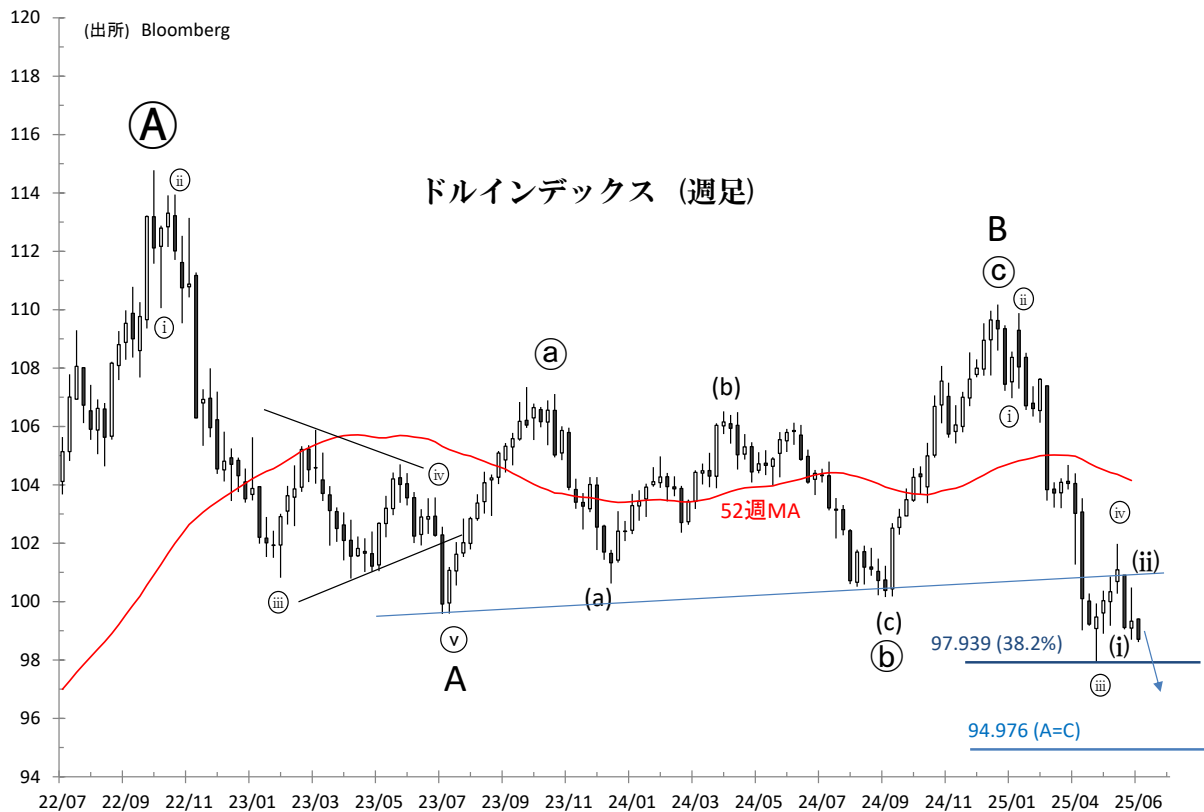
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.471 円]です。

投機筋の円買い持ち高が4週続けて縮小(2025年5月27日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 144.7 億ドルから 142.3 億ドルへ 4 週続けて縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

101.977(5/12 高値)からマル v 波による下落が進行中とみられます。

マル v 波はミヌエット級の五つ波[(i)~(v)]に分波し、98.694(5/26)からのドル高は、第(ii)波によるリバウンドとカウントされます。

第(ii)波は 100.481(5/29 高値)で終わり、第(iii)波によるドル安が始まったと思われます。この見方通りなら、第(iii)波は近々4 月安値 [97.921]を下回り、[94.976](A 波と C 波が等しく下がる水準)を目指す流れになるでしょう。

一方 4 月からのマル iv 波がまだ続いている、という解釈も現時点では残っています。マル iv 波はトライアングルなど保ち合いパターンとなり、マル ii 波「ジグザグ」と異なるパターンを形成します(オルタネーション)。この場合、ドル指数は 4 月安値割れの手前で踏みとどまり、その後の数週間は横ばいの動きとなりそうです。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
